



記録是对話のツール～『保育ドキュメンテーション』って何？～

右の写真は、市内のある園で掲示されている保育の記録写真です。子ども、職員、園を訪れる保護者も見える玄関ホールに設置されています。

これは「ドキュメンテーション」を活用した保育です。記録写真（ドキュメンテーション）は「保育内容を客観的に振り返り、次の支援に活かす」ことが目的です。主なメリットは次のように言われています。

- ①園の同僚職員との対話が広がり、子どもをどう見るかという「見取る力」が向上する。
- ②園を訪れた保護者と職員との対話が促進される。子どもの行為の意味を読み取り、学びのプロセスを記録しようとするよいモデルにふれるため、保護者や他の職員の学びにつながる。
- ③「小さな出来事に新たな意味を生み出す」という文化が生まれ、保育の質に反映される。
- ④子どもたちが自分の遊びを振り返り、その経験を一つのツールとして次に活かすことができる。



保育の写真とコメントには、学びがいっぱい

ドキュメンテーションの手ごたえや課題について、園長先生にお聞きしました。（◇手ごたえ◆課題）

- ◇写真などの記録をもとに園内研修を進め、職員が子どもの次の行動を待つようになった。
それに伴い、子どもが発する言葉にますます耳を澄ますようになった。
- ◇子どもに任せる保育の場が増えてきた。「どんなことがしたい?」「どうしたらいい?」と子どもの思いを引き出し、子どもが向き合おうとする力を見取ろうとする機会が増えてきた。
- ◇その結果、子どもたちが「自分で考える」「自分達で相談しようとする」「協力する」ことが以前より増えてきた。
- ◇ほかのクラスの保育も「見える化」され、園全体で保育を進める雰囲気が高まってきた。
- ◇来園する保護者が、写真を見て、付箋にコメントを書いて貼るようになりつつある。
- ◆あくまで保育の質を高める手段なので、ドキュメンテーションを作ることが目的にならないように、また職員の負担が増えないように工夫が必要である。最も大事なことは保育の時間に子どもの様子や心の変化をつぶさに見取り、成長の過程として捉え適切に関わっていくことだ。

小・中学校でも、授業研究の中で児童生徒の発言や思考に着目し、その背景を探りながら授業改善を進めています。最近では、タブレットを活用して授業中の子どもの様子を写真撮影し、その場で気づきを書き込み、事後研修会でその事実を共有して研修を進めている学校もあります。ドキュメンテーションをはじめ様々な方法で、園から小学校、中学校まで、こうした実践が行われています。豊岡市の教育の基盤となる「子どもの事実に学び、子どもに寄り添う教育」は、見取る力を鍛え、子どもへのよりよい関わりを求めて、今日も市内の各校園で、実践されているのです。